



辻 弘之 応用理学部門（土木地質） 勤務先：株三友コンサルタント

TEL (0138)53-2347 FAX (0138)54-1334

1972年（昭和47年）にこの業界に入ってから早くも32年がたちました。入社4日目に青函トンネルの現場に行かされました。北海道方、本州方両方に行きましたが、小石がばらばら飛んでくる竜飛岬の冬は今でも忘れられません。それと同時に、地盤調査、新幹線の地表踏査、弾性波探査など基本的な事を教えられました。なにせ、ボーリングや貫入試験のことも解らないまま現場に行かされるのですから今思えばたいそう乱暴だったと思います。ボーリング屋さんからいろいろ教えてもらったり、一緒に機械を解体して搬入したりしたこともありました。その後地すべりに携わるようになり、厚岸、苫前、沼前など全道あちこち年の半分以上は出張していたと思います。地質調査の仕事では現場はもちろんヒヤリとする事も多々ありますが、命拾いをしたことがあります。その日は早朝札幌を出て網走へ向かっていたのですが、運悪く滝川で追い越し違反で捕まってしまう、15分程足止めを食いました。落ち込んだまま層雲峡まで来たとき対向車がこの先で今通交止めになったから引き返せとの事。層雲峡の大崩落事故に遭遇したのです。あの時は、よくぞ捕まえてくれたと警察に感謝したものです。地すべりを本格的にやり出してから学会活動にも参加するようになり、諸先輩や大学の先生方ともおつきあいできた事が、自分にとって大きな財産になりました。函館に来てからは道南技術士協議会に参加させてもらっておりまして、また新たなおつきあいが始まりました。



次号は、長谷川修さん（水道部門）



三浦 展義 機械部門（機械設備） 勤務先：三浦技術士事務所（仮称）

TEL&FAX (011)618-0278 E-mail: nobumiura@nifty.com

小樽生まれで、現在札幌在住です。1974年（昭和49年）に新日鉄に入社し、以来30年間、設備技術者として多様な仕事を経験しました。最初、室蘭製鐵所の設備部で8年間、製鋼設備、圧延設備等の改善・改造・開発や生産ラインの新規設計・建設を通してプラントエンジニアとしての基礎を築きました。1982年から5年間、製鐵所生産技術部と本社の技術本部で、技術開発の企画調整、技術提携等を行い技術者としての視野の拡大が図れました。その後室蘭に戻り、プロジェクトリーダーとして行った新事業の市場調査・分析から新技術開発、新会社設立などの経験は、自分の技術屋としてのスパンを経営面まで拡張しました。1991年に技術現場に戻り、棒線2次加工技術開発を担当した後、分社子会社に出向し、自動車や窯業建材製造プラント向けなどの産業分野でFA化やプラント建設を行いました。最後の2年間は協力設備会社に移籍し、経営の一翼を担いつつ、ISO 9001認証取得や社内無線LANの構築などを中心となって行いました。

2年前、一人の機械技術者として、新日鉄を離れて世の中で通用するのか客観的な評価が欲しくなり、技術士の資格を取得しました。昨今、技術日本の復活に向けてMOT（Management of Technology 技術経営）が注目されています。強い倫理観を持つ総合技術監理の技術士が経営者の右腕になって経営を改革する事が重要であると思っています。昨年、会社を退社する機会を得、今後は、今までの経験を生かし、地場企業に少しでも貢献出来ればと、経営マネジメントや総合技術監理の勉強をしている現在です。



次号は、高松 功さん（機械部門）